（管理規則第3条実施要領 別紙様式）

No.（1）

2026年度（令和8年度）学校評価自己評価表

加茂中学校区	校番 85	福山市立加茂小学校
最終更新日	2026年（令和8年）8月27日	

Ⅰ 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現

Ⅱ 中学校区

前年度学校運営協議会（学校関係者評価）の主な内容
・小中学校の連携を密にして、小中学校でつながりのあるカリキュラムを作成していく必要がある。 ・「地域とともにある学校」を目指すために、児童生徒と地域とが関わり合う時間を増やす。 ・社会に出て役に立つ力を小中９年間で育む。 ・学校家庭で児童生徒が失敗から学べる場を作っていく必要がある。

児童生徒の現状
○友人との関わりや見方が固定化し、互いの新たな可能性や成長に気付きにくい。 ○困難な問題に対して試行錯誤を継続できず、早期に思考を停止したり、解答を諦めたりする傾向にある。 ○既習事項を新しい場面に応用・転用しようとする意識が低い。

育成する資質・能力	課題発見・解決力　コミュニケーション力　あきらめない心
めざすこども像（義務教育修了時の姿）	自ら問いを立て、粘り強く課題解決に取り組むこども 学びを自分事として捉え、社会・地域へつなげるこども
中学校区として統一した取組等	①「聞く・書く」を意識した授業づくり 他者の考えを受け止める傾聴と思考を言語化する時間を授業で確実に確保する。 ②地域とともにある学校 学校・家庭・地域が連携した教育活動の充実を図る。地域素材を活用した教育活動の実践。 ③幼保小中連携 こども・教職員の交流を通して、幼児期から小中学校までの学びを揃え、つなぐ。

Ⅲ 自 校

学校教育目標
ともに　学び合い　高め合う ～自分を磨き　高める～

現 状
＜学習＞ ○興味のあることには意欲的で、継続的な積み重ねによる学力の伸びが見られる。 △「基礎・基本」の定着や思考力・表現力が十分ではない。 〈生活〉 ○素直で感情豊か、他者を自然に受け入れる優しさがある。 △挨拶の返事が少なく、声が小さい。 △指示待ち、諦めが早い、失敗を恐れる。 △日常的に運動して体力を維持している児童と全く運動をせず体力が低下している児童の二極化が進んでいる。 △ゲームやスマホなどの使用時間が長く、家庭学習の時間が短い。 ＜授業＞ △授業では、協働的な学びの形態は見られるが、一部の児童の発言に依存する傾向にある。

育成する資質・能力		課題発見・解決力	コミュニケーション力	あきらめない心
めざすこども像	内容等	○学習したことや体験したことを結びつけ、「なぜ」「どうして」と自ら問いを見つけることができる。 ○解決に向かう中で失敗しても別の方法を試したり、仲間の意見を取り入れたりすることができる。 ○活動の過程を振り返り、次への課題へ意欲を繋げることができる。	○自分の意見を論理的に説明できる。 ○相手の反応を見ながら、質問や付け足しをして対話をすることで、考えを広げたり深めたりすることができる。 ○時と場に応じたふさわしい挨拶や言葉遣いを選択し、相手を思いやった態度で接することができる。 ○地域の課題を考えて解決しようとするなど、地域に貢献することができる。	○納得するまで何度も挑戦することができる。 ○「どうすれば伝わるか」「次はこうしてみよう」と自分なりに方向を修正して再挑戦できる。 ○困難に直面した時、周囲と意見を出し合って「共に」解決の糸口を探すことができる。

研究	テーマ	「自ら学び、考え続ける加茂っ子」の育成 ～問いを作り出す教材の工夫と学び方を自己選択する授業づくりを通して～
	内容等	・児童の思考を揺さぶる教材提示と「問い」の創出 ・「型」から「対話」へつなげるコミュニケーション指導 ・過程を価値づける「意味のある振り返り」
めざす授業の姿		①自ら問いを立て、学びを自己決定する授業 ②豊かな語彙を使い、仲間と最適解を求める対話のある授業（聞く・書く力の育成） ③試行錯誤のプロセスを価値づけ、粘り強く学び抜く授業

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立加茂小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	ﾌﾟﾛｾｽ評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	ﾌﾟﾛｾｽ評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	幼保小中が学びをつなぎ、粘り強く課題解決する力の育成を図る。	★	新規	○児童自ら「解決したい問い」を持ち、学び方を自分で選べる授業づくり ○失敗を恐れずに粘り強く最後までやり抜く過程が尊重される授業づくり	○「問い」を生む教材提示を研究し、導入時に既習事項との「ズレ」を突く課題を提示したり、学び方を選択したりできる時間がある授業を計画する。 ○「試行錯誤」を可視化して共有し「失敗は学びのヒント」であるという文化を醸成する。 ○プロセス重視のフィードバックを行い、具体的に価値づける。	○授業で自分が学びたいことに向けて学び方を自分で選ぶことができた。 85%以上 ○難しい問題でも、あきらめずにいろいろな方法を試した。 85%以上 ○学年末テスト(国・算) 思考力・判断力・表現力到達率80%以上	○見通しをもって学び方を選ぶことができた。88.9% ・授業冒頭に必ず一人ひとりが見通しをもつ時間を設け、学び方を自己選択できるようにした。 ○あきらめずにいろいろな方法を試した。85.9% ・自力解決だけでなく学びの過程を価値づけることを意識した授業づくりを行った。 ・学年末テスト 思考力・判断力・表現力到達率 80%以上 (国)76%(算)61%にとどまった。しかし、標準学力調査で到達率 40%未満の児童は小4、小5の国算において市平均を下回った。 本校　市 小4国　2%　8% 小5国　6%　10% 小4算　6%　9% 小5算　13%　14%	3	2	○国語科算数科共に共通した課題である説明する力をつけるために、自らもった問いについて説明したり、根拠となる箇所に印をつけて考えを話したりする機会を毎時間の授業で設定する。 ○試行錯誤して取り組んだ学習内容を類似問題を繰り返し学習したり分散学習を取り入れたりして活用できる力として定着させる。 ○系統性や既習事項を意識した授業づくりを行い、授業冒頭の見通しをもつ際の学習方略の引き出しを増やしていく。					
2	基本的な生活習慣を身につけ、規律ある集団生活の中で他者を思いやる態度を育てる。		継続	○「あいさつ・そうじ・そろえる」の取組を通して、基本的な生活習慣を整え、規律ある学校生活の定着を図る。	○学級会や児童会、委員会活動を通して子ども主体の取組を進め、生活力の向上を図る。	○自ら進んであいさつをする児童、時間いっぱい清掃に取り組む児童、くつ箱や机上の整理整頓、授業準備ができている児童の割合がそれぞれ80%以上。	・肯定的評価の回答率は、 ・あいさつ 84.7% ・そうじ　91.1% ・そろえる　81.2% となり、いずれも目標である 80%を上回った。しかし、児童と教員の評価には差が見られたため、実態を共有しながら取組の改善を図っていく必要がある。	3	2	○「あいさつ」では、レベル表を作成して目標を明確にするとともに、発声練習を取り入れることで、児童が意識して挨拶に取り組めるようにする。 ○「そうじ」では、 各クラスで振り返りの時間を設け、互いに確認し合いながら黙って掃除に取り組む体制を整え、集中して清掃できる習慣を身に付けさせる。 ○「そろえる」では、トイレや靴箱のスリッパの状況が視覚的に分かる表情カードを設置し、「そろえる」ことへの意識を高めることで、日頃の整理整頓につなげていく。					

2	主体的に運動に取り組む力の向上を図る。	★	継続	○運動に親しみをもち、進んで体を動かそうとする力の向上を図る。	○体育の学習において、運動量がある内容にする。 ○運動や遊びの引き出しを増やすために、例を月1回以上提示する。	○持久力が高まっている。80%以上 ○「運動やスポーツをすることは好きですか」 肯定的回答90%以上	・「運動やスポーツをすることは好きですか」 肯定的評価回答88.8%。 ・朝の運動（エア縄跳び、スクワット、前後ステップ）は継続して短い時間でできる効果的な取組だった。	3	2	・朝の運動を継続して行う。 ・体育の学習において、持久力の向上も意識した運動量がある内容にする。					
1	地域とつながり、主体的に地域に貢献し、地域に愛着をもつ児童を育成する。		新規	○地域との関わりをカリキュラムに位置付け、主体的な地域貢献活動を通して、地域への理解を深め、愛着の醸成を図る。	○生活科・総合的な学習を中心に各学年でふるさと学習のカリキュラムを作成し、地域学習を実施する。 ○地域と直接触れ合う学習を各学年1回以上実施する。	○「地域を大切にしたい」「地域の役に立ちたい」と実感する児童80%以上。	・「地域を大切にしたい」94.8% 「地域の役に立ちたい」87.6% ・4月の職員研修にてふるさと学習カリキュラムを作成し、7月には振り返り、改善計画を考えた。 ・地域と直接触れ合う学習を1学期に実施した学年は1学年にとどまった。夏季休業中に地域との方と連携し、2 学期以降の実践に向けた打ち合わせを行い、実施に向けた準備を進めた。	3	3	・生活科・総合的な学習を核として他教科と関連付けながらふるさと学習を進め、学習成果を地域へ発信・還元する活動を計画的に実施する。 ・3学期に全学年で校内発表会を行い、地域での体験と還元の取組を共有するとともに、振り返りと地域への発信につなげる。					

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。